



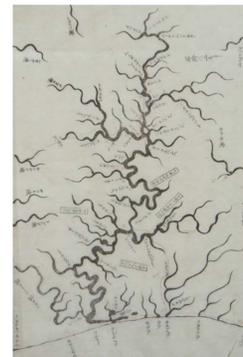
# 「北海道」命名の地。武四郎がたどった24日間の足跡。

## 1857年(安政4年)の天塩川

原生の大自然と対峙し、丸木船で遡上する24日間の調査紀行。  
松浦武四郎はこの旅の中で天塩川の姿や自然、アイヌの人々の暮らしを克明に記録し、「天塩日誌」を著しました。

### 「北海道」の名を生んだ、アイヌ長老との出会い。

武四郎は、帰途27日、オニサツペ(箆島の鬼刺辺川付近)で、故事に詳しいアエトモ長老から話を聞きます。「アイヌの通称である<カイナー>の「カイ」とは、この国に生まれた者のことで、「ナ」とは、貴人をさす尊敬の言葉である。」これを聞いた武四郎は「アイヌの人々は、自らその国を呼ぶとき、加伊(かい)と言い、それはこの地をさす名称である。アイヌはひげが長いところから、蝦夷(かい)の字を用いたが、もともと蝦夷地の蝦夷(えぞ=かい)とは加伊(かい)のことである」と考えました。明治2年7月17日、武四郎は道名に関する意見書を提出、日高見道(ひたかみどう)、北加伊道(ほくかいどう)、北海道、海島道、東北道、千島道の6道を提示、このなかから「北加伊道」が採用され、「加伊」の字に北方の海に通じる「海」をあて、「北海道」の名が誕生しました。現在の「北海道」の名は、まさにこの地でアエトモ長老と出会ったことから生まれたのです。



武四郎が描いた川筋の図 天塩日誌より (名寄市北国博物館蔵)



仕掛け弓による熊狩り 天塩日誌より (名寄市北国博物館蔵)



天塩川と名寄川合流点から上流を見る 天塩日誌より (名寄市北国博物館蔵)

#### 天塩日誌行程

- 往路(行き)
- 復路(帰り)

**【6月8日】** ※新暦 7月28日  
朝、霧雨かもやのように煙るなか出発。川には水が湧き立って見えるほどの沢山のウグイが見られました。

**【6月10日】** ※新暦 7月30日  
舟ばたまで上がるチョウザメの群れに遭遇。岩場にたくさんのつばめの巣がありました。



チョウザメ

**【6月13日】** 紋穂内テッシ ※新暦 8月2日  
急流のテッシというところを過ぎます。「川の中に岩が並んで、築をかけたように見える。」ここで初めて武四郎は、テッシの意味を知ります。

**【6月12日】** ※新暦 8月1日  
泊まった家の女性が弾く五弦琴(ごげんきん)の音色がいかにも奥ゆかしく雅びだと感心します。



天塩川で見たアイヌ民具の絵 (葉椀、五弦琴、口琴、浮き子、キセル) 「天塩日誌」より (名寄市北国博物館蔵)

**【6月11日】** ※新暦 7月31日  
カムイルウサン(中川町神居山)の絶壁は深山幽谷(しんざんゆうこく)の奇景。

※深山幽谷：奥深い山と静かな谷



北海道命名之地の碑 (音威子府村成島)

**【6月15日】** 名寄川 ※新暦 8月4日  
一度本流から離れ、名寄川上流を目指します。

**【6月19日】** ナイト ※新暦 8月8日  
盆をかたむけたような激しい雨が降り、一ときの間で晴れる。川の流を下り、昼過ぎにナイトに戻ります。

**【6月22日】** ※新暦 8月11日  
川はいよいよ急流になり、多くの流木や倒木が流れをはばんでいます。右は高い山続き、左は低い丘陵が重なり合って続き、舟を岸につないで陸に上がり歩いて行くことにします。

**【6月7日】** 天塩 ※新暦 7月27日  
6日に準備を終えて、翌7日、武四郎一行は天塩川の上流に向けて漕ぎ出します。丸木舟は二人乗りで、石狩川探検で乗った舟の半分くらいの大きさでした。

**【6月9日】** ※新暦 7月29日  
夜明け前に出発。水鳥が舟のかいの音に驚いて鳴きだす。川底が真っ黒に見えるほどのカラス貝を見つけ食用に捕っています。

**【6月30日】** ※新暦 8月19日  
曇り、夕方天塩の役所に着きました。

**【7月1日】** ※新暦 8月20日  
今回同行し、天塩川上流まで案内してくれたアイヌたちに、手当ての木綿布や酒、たばこ、針、糸などを渡し労苦をねぎらいます。

**【6月29日】** ※新暦 8月18日  
曇り空、夜はタカヤシリ(幌延町)に野宿。この辺りは鶴が多く、一晩中その鳴き声を聞きます。

**【6月28日】** ※新暦 8月17日  
川が増水して、普段の3割にも増えています。そのため船足が速く、夜はベンケナイ(中川町)に着き、野宿。

**【6月27日】** ※新暦 8月16日  
ユアノホリ(鬼刺山)のあたりまで来たとき、熊を1頭見つけます。アイヌたちは犬を2、3匹連れ熊の足跡を追い、夕方熊をしとめて帰って来ました。その夜、オニサツペで、アエトモ長老から話を聞きます。

**【6月26日】** ※新暦 8月15日  
雨で増水したため川の流が非常に速く、夜にはオクルトマナイまで着いてしまいます。

**【6月25日】** ※新暦 8月14日  
小雨のけむる中をナイオロプト(名寄)に着きます。

**【6月24日】** ※新暦 8月13日  
バンケヌカナン川を過ぎて、昼頃サツテクベツに着きます。

**【6月23日】** 天塩岳 ※新暦 8月12日  
密生したやぶを分けながら、川筋に沿って山に登ります。この山の南南東の方向に、重なり合った嶺の奥、丸い形の高い山が見え、これが昨年石狩岳(大雪山系)から見たテセウ岳(天塩岳)の姿だと確認します。天塩川の上流はまさにこの山から流れ出ているのです。

#### 参考文献

「天塩日誌」(丸山道子訳/凍土社)・北大河・テッシ松浦武四郎マップ(北海道支庁地域政策部地域政策課)  
「アイヌ語入門」(知里真志保/楡書房)・「アイヌ語地名解」(更科源蔵/北書房)・「北海道地名の旅」(赤木三兵/山音文学会)・「北海道駅名の起源」(国鉄北海道総局)・「角川日本地名大辞典〜北海道」(角川書店)・「新北海道年表」(北海道/北海道企画出版センター)  
名寄河川事務所20年史(旭川開発建設部 名寄河川事務所)・天塩川に関する各市町村資料  
※原文の引用文では、一部現代語に解釈しております。また、約160年前に書かれたものであり、現在では、一部特定が難しい記述も多くあります。記録については、現在の地理から推定したものであり、決して断定するものではありません。



あしたを創る 北の知恵  
北海道開発局

製作・監修 旭川開発建設部名寄河川事務所  
協力 留萌開発建設部幌延河川事務所